

秋まき小麦の赤さび病・赤かび病防除

1. 秋まき小麦の生育状況

生育は平年並で、茎数も平年並で推移しています。今後も生育状況を観察し、防除適期を逃さないよう努めましょう。

表1 5月15日現在のきたほなみの生育状況(普及センター本所作況調査より)

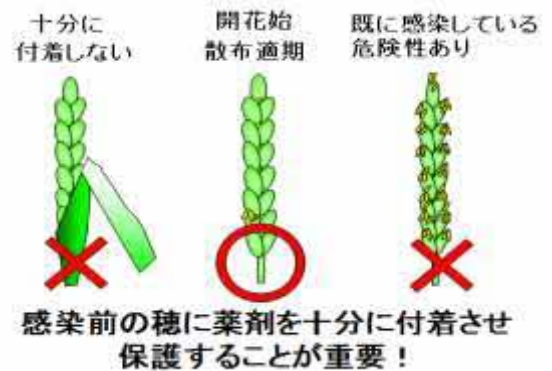
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	遅速	これまでの生育期節		
				起生期	幼穂形成期	止葉期
本年	35.3	1,670	+1	3月29日	4月29日	—
平年	31.1	1,681		3月31日	5月1日	5月26日
前年	31.3	1,622	-3	3月29日	5月4日	5月30日

2. 赤さび病・赤かび病の防除について

(1) 赤さび病

止葉を含む上位2葉の発病を抑えることが重要です。赤さび病抵抗性が「やや強」以上の「きたほなみ」「ゆめちから」は、通常、1回目の赤かび病防除との同時防除で対応できます。

近年、7月に入ってから発生が見られていますので、ほ場の確認を行い、適期防除に努めましょう。



(2) 赤かび病

赤かび病の感染時期は開花時期です。防除を始める前に、小麦が出穂して「**開花始(上図)**」を迎えたことを必ず確認しましょう。

表2 赤さび病・赤かび病の防除体系例

	防除時期	薬剤名	対象病害		倍率	系統名	使用回数
			赤さび	赤かび			
1	開花始	バラライカ水和剤	●	●	500	DMI・フタルイミド	2
2	～7日後	プライア水和剤		●	1,000～1,500	ベンゾイミダゾール・その他	2
3	～7日後	シルバキュアフロアブル	●	●	2,000	DMI	2
臨機		アミスター20フロアブル	●		2,000～3,000	QoI	3

※同系統の薬剤の連用は避けましょう。

※使用回数はシルバキュアフロアブルが融雪後2回以内です。

※アブラムシ多発時は殺虫剤(例:ウララ DF4,000倍、スミチオン乳剤1,000倍など)を使用しましょう。

※別紙フローチャートも参考にしてください。